

機関番号：15201

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19320111

研究課題名（和文）両大戦間期・第二次大戦期の中国における在華日本系企業についての総合的研究

研究課題名（英文）A General study of Japanese Corporations in China, the Interwar and World War II period

研究代表者

富澤 芳亜（TOMIZAWA YOSHIA）

島根大学・教育学部・准教授

研究者番号：90284009

研究成果の概要（和文）：主要なものとして、以下の3つがある。(1)社会経済史学会第78回全国大会におけるパネル・ディスカッション「両大戦間期・第二次大戦期の中国における在華日系企業の活動ー内外綿会社の活動を事例として」(2009年9月27日)、およびシンポジウム「両大戦間期・第二次大戦期の中国における在華日系企業の活動」(2009年9月28日、東京大学社会科学研究所)の開催。(2)富澤芳亜、久保亨、萩原充編『近代中国を生きた日系企業』の刊行（平成23年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）交付内定）。(3)在華紡関係者のインタビューの文字化とその校閲（一部は公刊済み）。

研究成果の概要（英文）：Main result is three points of the following. (1) Holding of a panel discussion "Activity of Japanese Corporations in China, the Interwar and World War II period-An case study of Naigaiwata Co.,Ltd" in the 78th Socio-Economic History Society national convention (September 27, 2009), and a symposium of "Activity of Japanese Corporations in China, the Interwar and World War II period" (September 28, 2009, at Tokyo University Institute of Social Science). (2) Publication of "Japanese-company which lived in modern China." Edited by Tomizawa Yoshia, Kubo Toru, Hagiwara Mitsuru. (3) Transcription of the interviews to the persons concerned of the Japanese spinning company in China.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
2008年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
総計	15,600,000	4,680,000	20,280,000

研究分野：東洋史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：国際研究者交流、現代史、近代史、経済史、企業史、中国：日本

## 1. 研究開始当初の背景

(1)1980年代以降の東アジア地域の高度経済成長は、貿易と投資を媒介とする強力な国際リンケージにより支えられたのであり、この国際リンケージの担い手は、華人資本と日本

系企業だった。1980年代以降のアジア取引圏を含む華人ネットワーク研究の活発化は、このような東アジア地域の経済発展を歴史的に位置づけようとする側面を持っていた。現状の東アジア地域経済における華人資本

と日本系企業の役割と作用には大きな相違点を認めることができるが、経済発展のもう一方の担い手である日本系企業の東アジア地域における活動を、中国近現代史に位置づけようとする研究は未だに不十分であるように思われる。日本系企業の近現代中国における活動の研究は、従来、主に日本経済史の分野から日本に所蔵された史料を使用し研究が展開され、着実な成果を上げてきた。しかし、個々の企業に関する一次資料を用いた成果は意外にも少ないのが現状であり、個々の企業の活動が、中国社会にどのような影響を与え、中国で如何なる経験を積んだのかについての分析は不十分である。その一方で、日本系企業の進出した中国では、近年急速に史料公開が進み、上海、南京、青島など各地の文書館に多くの日本系企業の一次資料が保管されていることを確認できていた。

(2)本研究は上記のような現状に鑑み、在華日本系企業の活動の実態を明らかにするとともに、中国資本企業や中国社会が在華日本系企業の活動より受けた影響についても明らかにする。その際に重視するのは、在華日本系企業が中国社会に与えた影響と、在華日本系企業が中国における活動で培った「中国経験」とも呼べるものである。このような在華日本系企業の中で、民間投資として最大規模だった在華日本紡織業（以下、在華紡と略称する）を例にあげれば、在華紡の経営・管理技術は、日本本土の紡織企業のそれとは異なり、中国に合わせて形成された独自ものだった。そしてこの在華紡の経営・管理技術は、日本留学の経験や在華紡に勤務経験を持つ中国人技術者により、中国資本企業にも拡大する可能性のあったことが既に指摘されている。またこうした経営・管理技術の形成に、中国資本紡織企業を含めた中国社会が在華紡に強い影響を及ぼしたことは自明の理であり、こうした相互作用についても注視しつつ分析を進めた。

## 2. 研究の目的

本研究は対象とする時期を、中国への日本系企業（在華日本企業の資本形態には、日本資本単独出資や日中合資など様々な形態があり、「日本系企業」の呼称を用いる）の進出の本格化した第一次世界大戦終結（1910年代末）から、第二次大戦敗戦による中断（1945年）までの期間とし、この間の中国における日本系企業の中国での活動を重工業、紡織などの軽工業、電力などのエネルギー産業、鉄

道などの近代交通網の整備、中国への技術移転などの面を通じて多面的に明らかにすることを目的としている。

## 3. 研究の方法

当該分野における一次資料を使用した研究は日本・中国・台湾・欧米を問わず極めて未開拓の現状にあった。

(1)これまで在華日本系紡織企業の研究は、主に日本経済史研究の方面から進められ、その主な成果として高村直助『近代日本綿業と中国』東京大学出版会、1982年、西川博史『日本帝国主義と綿業』ミネルヴァ書房、1987年をあげることができる。これらの成果に共通する視角は、日本の帝国主義的な対中国経済進出の具現化として在華日本系紡織企業をとらえ、これを中国資本紡織企業の阻害要因としてとらえるものだった。また中国における代表的な成果である杜恂誠『日本在旧中国的投資』上海社会科学院出版社、1986年も、同様の視角を共有している。

(2)本研究プロジェクトの成員も、このような視角を否定するものではないが、在華日本系企業の歴史的意義を帝国主義的経済進出の具現化という視角のみでは、その全体像を解明しきれないものと考えている。その点において、桑原哲也の『企業国際化の史的分析』1990年は、日本における多国籍企業の発端としての在華日本系紡織企業のあり方を解明した画期的なものだった。しかしながら、桑原の成果においても、日中両国に散在する、特に中国において公開の進められている一次史料の使用という点からみれば不十分な点が多々残されているといっても差し支えない。また在華日本系企業が、その当時の中国資本企業や中国社会に及ぼした影響についても、旧「満州」（現中国東北）地区を除く中国本土においては、必ずしも充分には解明されてこなかった。

(3)本研究は、上述の史料面と研究視角において残された問題を解決し、近現代中国経済史研究の空白を埋めるために行うものであり、富澤、久保は紡織業における在華日本企業と中国資本企業の相互作用、桑原、阿部は紡織業における在華日本系企業、萩原は製鉄業を中心とした重工業における在華日本系企業、金丸は電力を中心としたエネルギー産業における在華日本系企業の分析を行った。

## 4. 研究成果

「研究成果の概要」にも記したが、主要なものとして以下の3つがあげられる。(1)社会経済史学会第78回全国大会におけるパネル・ディスカッション「両大戦間期・第二次大戦期の中国における在華日系企業の活動ー内外綿会社の活動を事例として」(2009年9月27日)、およびシンポジウム「両大戦間期・第二次大戦期の中国における在華日系企業の活動」(2009年9月28日、東京大学社会科学研究所)の開催。(2)富澤芳亜、久保亨、萩原充編『近代中国を生きた日系企業』の刊行(平成23年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)交付内定)。(3)在華紡関係者のインタビューの文字化とその校閲(一部は雑誌論文①として公刊済み)。

当該分野における日本の代表的な学会である社会経済史学会において、パネル・ディスカッションを開催したことなどにより、一次史料を使用しつつ、在華日本企業と中国社会の相互作用を確認するという研究方法・視角は高い評価を受けることができた。また、この成果については、平成23年度中に『近代中国を生きた日系企業』として刊行される予定となっている。「5. 主な発表論文等」にあるように、本科研においては、雑誌論文39、学会報告24、図書17件というように、研究面において大きな成果をあげることができた。またこれに含まれない張忠民「一戦前中、日、英在華棉紡織業之競争」『上海档案史料研究』第8輯、2010年、29-41頁のような海外の研究協力者の諸成果もあり、海外の研究者との連携という点でも成果をあげることができた。くわえて(3)の在華紡関係者のインタビューの文字化とその校閲についても、その一部を、桑原哲也、富澤芳亜「在華紡勤務27年の回顧——稲葉勝三氏(豊田紡織廠)インタビュー」『近代中国研究彙報』第33号、2011年、1-63頁として公開することができた。すでに全てのインタビューの文字化を終えており、校閲を終えたものから、順次、公開する予定であり、一次史料の整理という面からも大きな成果をあげることができた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計40件)

- ①桑原哲也、富澤芳亜「在華紡勤務27年の回顧——稲葉勝三氏(豊田紡織廠)インタビュー」『近代中国研究彙報』査読有り、第33号、2011年、1-63頁
- ②萩原充「戦後中国の鉄鋼業建設計画に関する一考察——大冶鉄廠の復興計画を中心に——」『社会経済史学』査読有り、第75巻5号、2010年、3-24頁
- ③富澤芳亜「1930年代的中国銀行與冀豫晋

三省紡織工業的重組」張忠民、陸興龍、李一翔主編『近代中国社会環境与企業發展』上海社会科学院出版社、査読有り、2008年、93-113頁

④久保亨「關於企業管理公司的新思考」張忠民、陸興龍、李一翔主編『近代中国社会環境与企業發展』上海社会科学院出版社、査読有り、2008年、5-10頁

⑤久保亨「戦時重慶の綿紡織業と国民政府」『信大史学』査読有り、第33号、2008年、20-39頁

⑥桑原哲也「日本企業の国際経営に関する歴史的考察——両大戦間期、中国における内外綿会社——」『日本労働研究雑誌』査読有り、No.262、2007年、17-29頁

[学会発表] (計24件)

①富澤芳亜「戦時期における在華紡技術の中国への移転」広島史学研究会大会東洋史部会、2010年10月31日、広島大学

②久保亨「在華紡技術の評価と継承をめぐる」シンポジウム「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」2009年9月28日、東京大学社会科学研究所

③萩原充「日中戦争期の大冶鉄鉱と漢冶萍公司」シンポジウム「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」2009年9月28日、東京大学社会科学研究所

④富澤芳亜「戦時期、戦後における在華紡技術の移転の可能性」社会経済史学会第78回全国大会 パネルディスカッション「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」2009年9月27日、東洋大学

⑤桑原哲也「内外綿の技術移転と労務管理の現地化」社会経済史学会第78回全国大会 パネルディスカッション「両大戦間・第二次大戦期の中国における在華日本系企業の活動」2009年9月27日、東洋大学

⑥富澤芳亜「1920-30年代的廠家經營的紡織企業」、「中国企業史的新典範：概念與個案」国際學術討論会、2007年8月24日、中国復旦大学歴史系

[図書] (計17件)

①阿部武司・中村尚史編、ミネルヴァ書房『講座日本經營史 2 産業革命と企業經營』2010年、1-53、81-104頁

②加藤弘之、久保亨共著、岩波書店、『叢書・中国の問題群 [5] 進化する中国の資本主義』2009年、250頁

③飯島渉、久保亨、村田雄二郎共編、東京大学出版会、『シリーズ20世紀中国史 [3] グローバル化と中国』2009年、久保執筆部分1-12,207-227、富澤執筆部分145-165頁

④久保亨、土田哲夫、高田幸男、井上久士共著、東京大学出版会『現代中国の歴史——両岸三地100年のあゆみ』2008年、288頁

⑤金丸裕一編、ゆまに書房、『近代中国と企業・文化・国家 立命館大学社会システム研究所叢書1』、2008年、550頁

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

富澤 芳亜 (TOMIZAWA YOSHIA)  
島根大学・教育学部・准教授  
研究者番号：90284009

### (2) 研究分担者

阿部 武司 (ABE TAKESHI)  
大阪大学・経済学研究科・教授  
研究者番号：10151101  
金丸 裕一 (KANRMARU YUICHI)  
立命館大学・経済学部・教授  
研究者番号：80278473  
久保 亨 (KUBO TORU)  
信州大学・人文学部・教授  
研究者番号：10143520  
桑原 哲也 (KUWAHARA TETSUYA)  
福山大学・経済学部・教授  
研究者番号：20103723  
萩原 充 (HAGIWARA MITSURU)  
釧路公立大学・経済学部・教授  
研究者番号：20180804  
吉田 建一郎 (YOSHIDA TATEICHIRO)  
研究者番号：60580826  
(H19→H21：研究協力者)

### (3) 連携研究者

加島 潤 (KAJIMA JUN)  
東京大学・現代中国研究拠点・特任助教  
研究者番号：50463899

### (4) 研究協力者

今井 就稔 (IMAI NARUMI)  
一橋大学大学院・社会学研究科  
芦沢 知絵 (ASIZAWA CHIE)  
東京大学大学院・文学研究科  
張 忠民 (ZHANG ZHONGMIN)  
上海社会科学院・経済研究所・研究員  
陳 慈玉 (CHEN CIYU)  
台湾・中央研究院近代史研究所・研究員  
陳 計堯 (CHEN JIYAO)  
台湾・東海大学・歴史系・副教授